Mikasa

プレートコンパクター

# MVC-F60
# MVC-F70

## 取扱説明書

ja

三笠製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してご利用ください。

「　　」

http://www.mikasas.com

401-01325

# 目　次


1 はじめに ---- 1
2 機械概要 ---- 1
3 警告サイン ---- 2
4 安全のための注意事項 ---- 2
- 4.1 一般的な注意事項 2
- 4.2 給油中の注意事項 2
- 4.3 使用場所、換気に関する注意事項 2
- 4.4 作業前の注意事項 3
- 4.5 作業上の注意事項 3
- 4.6 リフティング時の注意事項 3
- 4.7 運搬・保管に関する注意事項 3
- 4.8 整備上の注意事項 3
- 4.9 ラベル取付位置図 4
- 4.10 ラベルの絵文字説明 5

5 仕様 ---- 6
- 5.1 本体 6
- 5.2 エンジン 6

6 外観図 ---- 6
- 6.1 外観寸法 6
- 6.2 コントロール装置位置及び操作名称 7

7 運転前の点検 ---- 8
- 7.1 点検 8
- 7.2 回動式移動車の使用方法 9

8 運転 ---- 11
- 8.1 始動 11
- 8.2 運転 12

9 停止 ---- 13
10 輸送 ---- 14
- 10.1 積み降ろし 14
- 10.2 運搬に関する注意事項 14

11 保管 ---- 14
12 定期点検と調整 ---- 15
- 12.1 各部点検スケジュール 15
- 12.2 エンジンオイルの交換 15
- 12.3 エアークリーナーの清掃 15
- 12.4 Vベルト・クラッチの点検 16
- 12.5 起振体オイルの点検・交換 16
- 12.6 エンジン板ボルトの点検・交換 16

13 トラブルシューティング ---- 17
- 13.1 本体 17
- 13.2 エンジン 17

## 1. はじめに

- この取扱説明書は、プレートコンパクターの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進める為に、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
- お読みになった後も必ずお手元に保管し、分からない事があった時には取り出してお読みください。
- エンジンの取扱に関しては、別途エンジン取扱説明書を参照してください。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせ下さい。なお、パーツリストは当社ホームページ http://www.mikasas.com/の三笠WEBパーツリストでも公開しております。是非ご利用ください。

**この取扱説明書に記載されているイラストが、 設計変更等により一部実機と異なる場合があります。**

## 2. 機能概要

### 用　　途

本機は起振体の一軸振動を転圧盤を介して地面に伝え、表面を平坦にする機械です。土砂及び砂利の敷き均しや、アスファルト舗装の仕上げ作業等表面を平坦にする作業に適します。

### 誤用途・ご使用の警告

水分の多い地面、特に粘土質の現場では、本機が進行せず作業に適しません。また、大きな石が含まれた土質の場合、転圧力が不足し敷き均しが出来ません。
本機は表層を平坦にする機械であり、締め固めを重視する現場には適しません。下層まで締め固めが必要な場合は、ランマー、バイブロコンパクター、振動ローラー等締め固め効果が大きい作業機を使用してください。
本機は土砂、土、砂、及びアスファルトの転圧に使用します。それ以外の作業に使用してはいけません。

### 構　　造

本機上部は、エンジン、ハンドル、ベルトカバー、散水タンク(オプション)及びガードフックで構成されており、これらを固定するエンジンベースは転圧盤に防振ゴムを介して固定されています。
本機下部は転圧盤と起振体で構成され、起振体には一個のアンバランスシャフト(振子軸)が内臓されています。このアンバランスシャフトには、上部のエンジン出力軸に取り付けられた遠心クラッチからVベルトを介し動力が伝達されます。

### 動力伝達

原動機として4サイクル空冷単気筒ガソリンエンジンを搭載し、エンジン出力軸には遠心クラッチが取り付けられています。
エンジン回転数を上げる事により、遠心クラッチが繋がり、クラッチドラムと一体のVプーリー・Vベルトを介して起振体Vプーリーと連結し、エンジン回転数を転圧に適した回転数に変換します。
起振体Vプーリーは、転圧盤に固定された起振体ケース内に設けられた一個のアンバランスシャフト(振子軸)を回転させ、それによって生じる振動を転圧盤に伝達させます。
転圧盤の振動で本機は前進し、振動と本機の重量で地面の転圧・均し作業を行います。

## 3. 警告サイン

本取扱説明書および機械に貼付けてあるラベルの ⚠ マークは警告サインです。安全上、必ず厳守してください。

| | |
|---|---|
| ⚠ | 人体に対する危険がある場合 |
| ⚠ 危険 | 指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険が極めて高い場合 |
| ⚠ 警告 | 指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険があり得る場合 |
| ⚠ 注意 | 指示を守らないと、怪我や傷害事故が生じる可能性がある場合 |
| 注意 | 指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合 |

## 4. 安全のための注意事項

### 4.1 一般的な注意事項

**⚠ 警告**

- こんな時は作業をしない。
  - ○ 過労や病気などで体調が悪いとき。
  - ○ 医薬品や薬物を服用したとき。
  - ○ 飲酒をしたとき。

**⚠ 注意**

- 取扱説明書を良くお読み頂き、正しい取扱で安全に作業を行ってください。
- エンジンの取扱は別紙エンジン取扱説明書を参照してください。
- 機械の構造を充分理解してください。
- 作業を安全に行うために、防護具(ヘルメット、ゴーグル、安全靴、耳栓等)を着用し、適切な作業服で作業してください。
- 常に機械を点検し、正常であることを確認してから運転してください。
- 機体の貼付銘板(操作方法・警告銘板等)は安全を守るために非常に重要です。機体を清掃し、常に読みやすい状態を保ってください。読み取りにくくなった場合は、新しい銘板に交換してください。
- 幼児等が触れると大変危険です。保管方法、保管場所には充分注意してください。
- 整備する場合は必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- 三笠純正部品を使用しない場合や、改造及び修正を加える事で発生した如何なる事故・故障に関して、当社は一切責任を負いません。

### 4.2 給油中の注意事項

**⚠ 危険**

- 燃料を給油する時
  - ○ 必ず換気の良い場所で行ってください。
  - ○ 必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから給油してください。
  - ○ 周囲に可燃物の無い平坦な場所を選び、こぼさないように注意してください。こぼれたら良く拭き取ってください。
  - ○ 給油中は絶対に火気を近付けないでください。(特にタバコを吸いながらの給油は厳禁)
- 燃料は口元一杯まで入れるとこぼれる可能性があり危険です。給油レベルはエンジン取扱説明書に規定された量を守ってください。
- 給油後は、タンクキャップをしっかり締め込んでください。

### 4.3 使用場所、換気に関する注意事項

**⚠ 危険**

- 室内、トンネル内等換気の悪い場所では使用しないでください。
  エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており、大変危険です。
- 火気のある傍での運転はしないでください。

## 4.3 使用場所、換気に関する注意事項

**⚠ 危険**

- 室内、トンネル内等換気の悪い場所では使用しないでください。
  エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており、大変危険です。
- 火気のある傍での運転はしないでください。

## 4.4 作業前の注意事項

**⚠ 注意**

- 運転前点検を必ず行ってください。
- 各部分の締付具合を点検してください。振動でネジが緩んでいると思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けてください。

## 4.5 作業中の注意事項

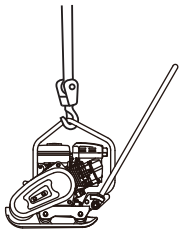
**⚠ 注意**

- 長時間の使用は、はくろう病等に注意が必要です。本機は振動機械の為、長時間の運転は人体に悪影響を及ぼします。充分な間隔を空け使用してください。
- 本機を始動したり作業するときは、周囲の人や障害物に対して安全であることを確認してください。
- 常に足場に注意し、バランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業してください。
- エンジン本体、マフラー及びマフラーカバー等高温になる箇所は、運転直後等の熱い時は触れないように注意してください。
- 運転中や移動時、停止時等に本機の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は　直ちに作業を中止してください。
- 本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止させてください。また本機を移動する場合もエンジンを停止させて、燃料コックも閉じてください。

## 4.6 リフティング時の注意事項

**クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行って下さい。**

**⚠ 危険**



- 吊り上げ作業に対し、本機部品(特にフック・防振ゴム)の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全である事を確認してください。
- 吊り上げ時はエンジンを停止させ燃料コックを閉じてください。
- 強度の充分なワイヤーロープ等を使用してください。
- 吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、その他の場所(ハンドル等)での吊り上げ作業はしないでください。
- 本機を吊り上げた際、下には絶対に人や動物を入れないでください。
- 安全の為、必要以上の高さには吊り上げないでください。

## 4.7 運搬・保管に関するの注意事項

**⚠ 警告**

- 運搬時はエンジンを停止させてください。
- エンジン及び本機がよく冷えてから運搬してください。
- 運搬時は必ず燃料を抜いてください。
- 本機が動いたり、倒れたりしないようしっかりと固定してください。

## 4.8 整備上の注意事項

**⚠ 注意**

- 安全を確保し、本機の性能を維持する為に、適切な整備が必要です。本機の状態を充分留意し、良好な状態を維持してください。特に、リフティング関連部品の不適切な整備は重大事故の原因となります。
- 本機の温度が下がってから作業を行ってください。特にマフラーは高温になり、火傷をするおそれがあります。またエンジンやエンジンオイル、起振体等も熱くなりますので、火傷をしないよう充分注意してください。

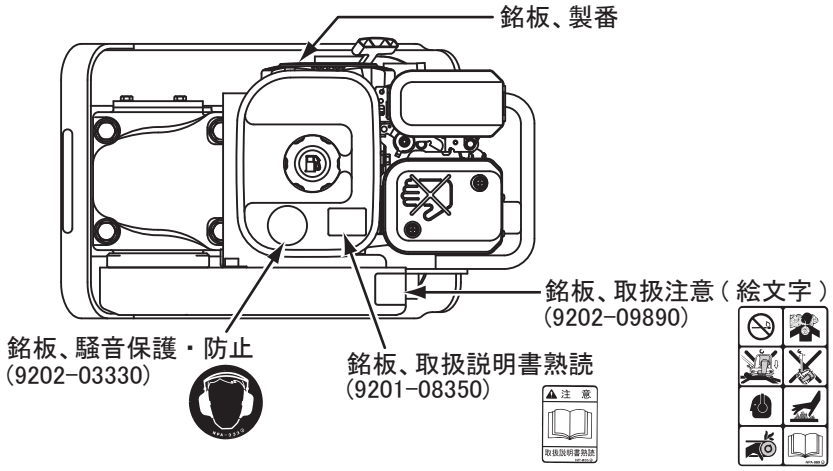
## 4.8 整備上の注意事項

**⚠ 注意**

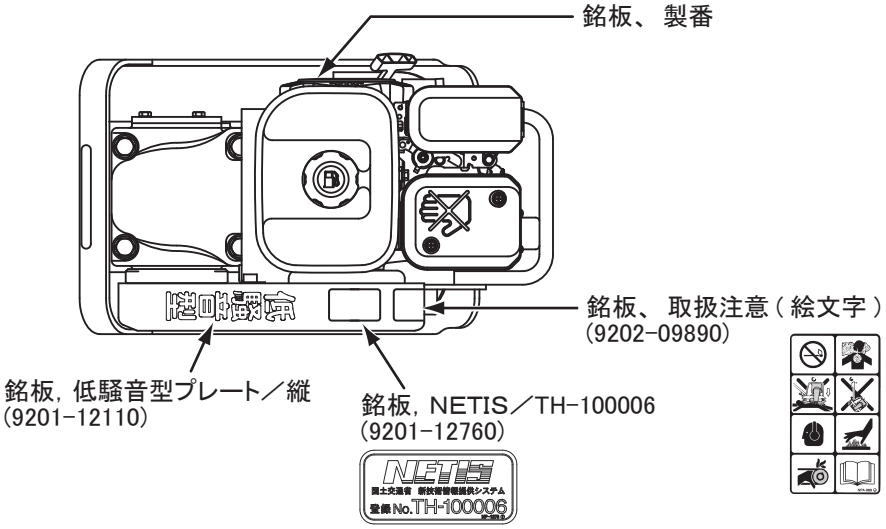
- 点検調整は、必ずエンジンが停止した状態で行ってください。回転部に巻き込まれ、重大な傷害を負う危険性があります。
- 整備終了後、保安部品の取付及び安全性の確認を行ってください。特に、ボルト・ナットの点検は充分行ってください。
- 分解を伴う整備を行う場合は、必ず整備解説書を参照し、安全に作業を行ってください。

## 4.9 ラベルの取付位置図

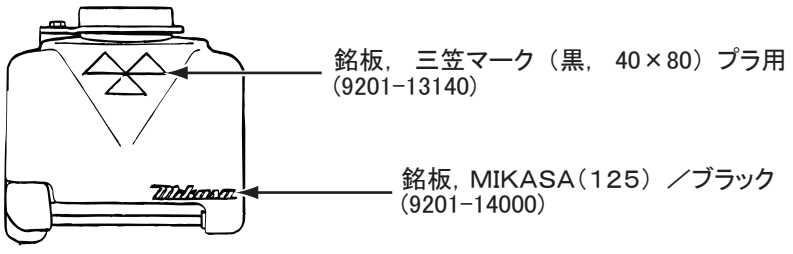
### 4.9.1-1 MVC-F60H
### MVC-F70H




### 4.9.1-2 MVC-F60HS



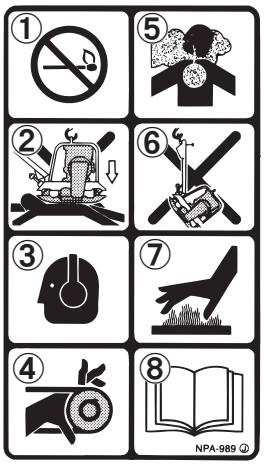

### 4.9.1-3 水タンク



## 4.10 警告ラベルの絵文字説明

騒音による聴覚障害に注意
●本機運転中は、必ず耳栓やイヤーマフを着用して下さい。

---




取扱注意銘板
① 火気厳禁
給油時は必ずエンジンを停止させてください。給油口に火気を近づけると火災の危険があります。
② 吊り上げた機械の下への入り込み禁止
吊り上げた機械の下へは絶対に人や動物等を入れないでください。
③ 騒音による聴覚障害に注意
本機運転中は、必ず耳栓やイヤーマフを着用してください。
④ 回転部巻き込み注意
運転中は、Vベルトやクラッチ等回転部に手、体及び衣服等が触れないよう近付かないでください。
⑤ 排気ガス中毒に注意
排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒等を引き起こす危険性があります。
換気の悪い場所では運転しないでください。
⑥ ハンドルでの吊り上げ禁止
落下の危険性がありますので、ハンドルでの吊り上げはしないでください。
⑦ 高温部接触による火傷に注意
運転中や運転直後に高温部(エンジン、マフラー、起振体ケース、ベルトカバー等)に触れると火傷の恐れがあります。
⑧ 取扱説明書熟読
運転前に必ず取扱説明書をよく読み、操作内容を充分理解してください。

---

取扱説明書熟読
運転前に必ず取扱説明書をよく読み、操作内容を充分理解してください

---

エンジン付属銘板
① 火気厳禁
給油時は必ずエンジンを停止させてください。 給油口に火気を近づけると火災の危険があります。
② 排気ガス中毒に注意
排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒等を引き起こす危険性があります。 換気の悪い場所では運転しないでください。
③ マフラー高温注意
マフラー及びその周辺に触れないでください。
④ 取扱説明書熟読
安全のためご使用の前に必ず取扱説明書をお読みください。
⑤ 燃料はガソリンを使用してください。

# 5. 仕様

## 5.1 本体

| 型　　式 | MVC-F60H | MVC-F60H<br>中折ﾊﾝﾄﾞﾙ付 | MVC-F60HS | MVC-F70H |
|---|---|---|---|---|
| 搭載エンジン | ホンダ GX120 | ← | ← | ホンダ GX160 |
| 主要寸法 | | | | |
| 全　　長 | 910mm | 925mm | 910mm | 920mm |
| 全　　幅 | 350mm | ← | ← | 420mm |
| 全高(ハンドル) | 805mm | 850mm | 805mm | ← |
| 輾圧盤(長さ×幅) | 510X350mm | ← | ← | 510X420mm |
| 性　　能 | | | | |
| 振　動　数 | 93Hz(5,600vpm) | ← | ← | ← |
| 遠　心　力 | 10.1kN(1,030kgf) | ← | ← | 12.0kN(1,220kgf) |
| 速　　度 | 20 ～ 25m/min | ← | ← | ← |
| 起振体オイル量 | 140cc | ← | ← | ← |
| 起振体オイル | SAE10W-30 | ← | ← | ← |
| 機械質量 | 65kg | 66kg | 69kg | 73kg |
| 使用Vベルト | RPF3310 | ← | ← | ← |
| 水タンク容量 | 11L (ｵﾌﾟｼｮﾝ) | ―― | 11L (ｵﾌﾟｼｮﾝ) | ―― |

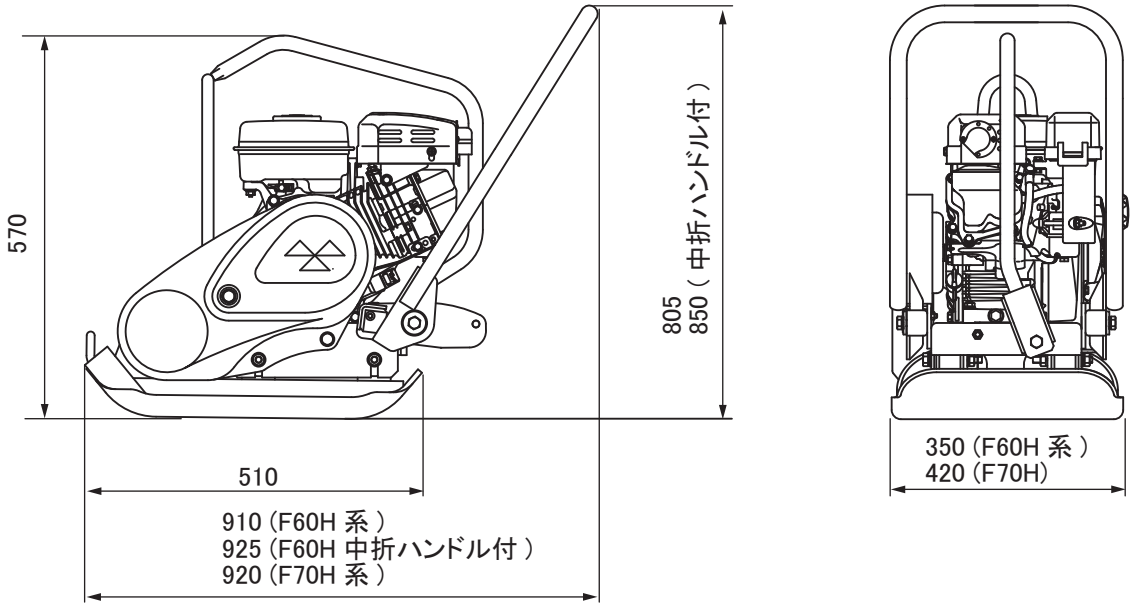
※ 回動式移動車を装備した際の機械重量は各重量に2kg増加します。

## 5.2 エンジン

| 型　　式 | ホンダ GX120 | ホンダ GX160 |
|---|---|---|
| 機関型式 | 空冷式 4 サイクルガソリンエンジン | |
| 容　　積 | 122cc | 163cc |
| 最大出力 | 2.4kW/3,600m$^{-1}$ (3.3PS/3,600rpm) | 3.6kW/4,000m-1 (4.9PS/4,000rpm) |
| 冷却方式 | 強制空冷式 | |
| 使用潤滑油 | 自動車用エンジンオイル (SE 級以上 ) SAE#20 ～ #30( 寒冷時 10W-30) | |
| 潤滑油量 | 0.56L(560cc) | 0.58L(580cc) |
| 使用燃料 | 自動車用無鉛ガソリン | |
| 燃料タンク容量 | 2.0L | 3.1L |
| スパークプラグ | NGK BPR6ES | NGK BPR6ES |

# 6. 外観図

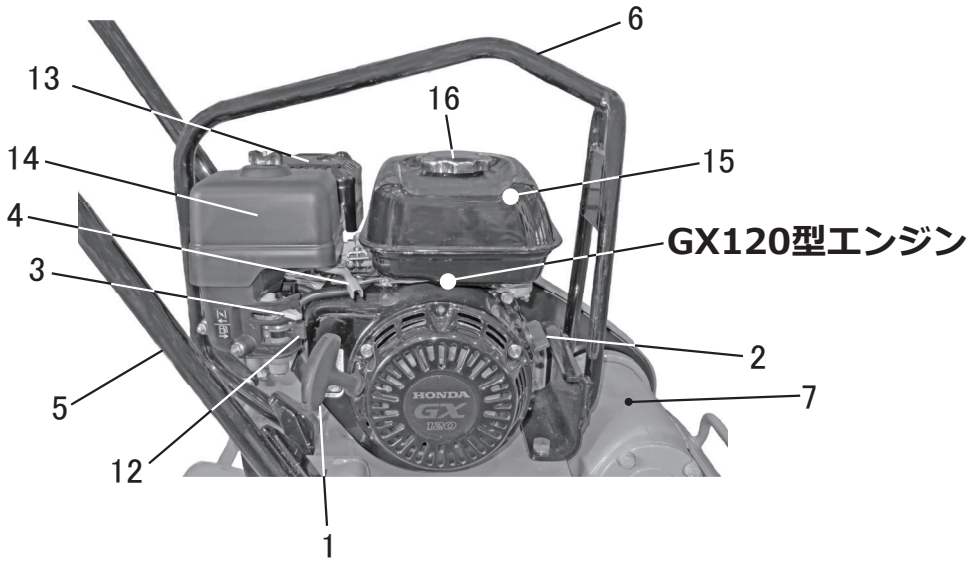
## 6.1 外観寸法図 (単位:mm)

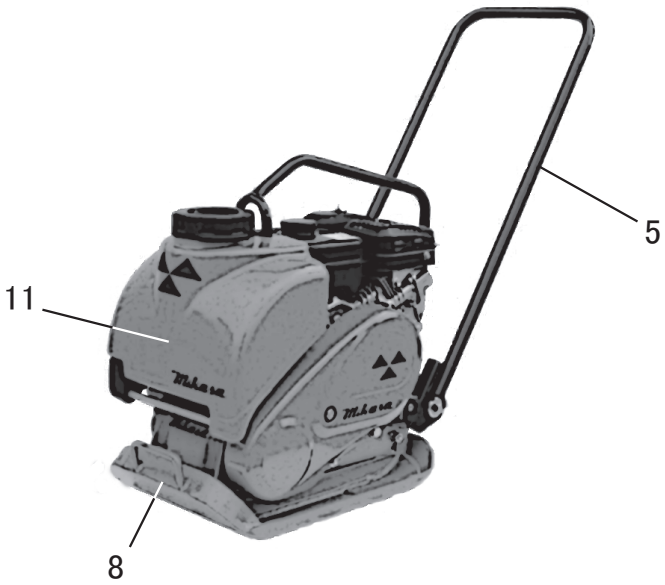


## 6.2 コントロール装置位置及び装置名称

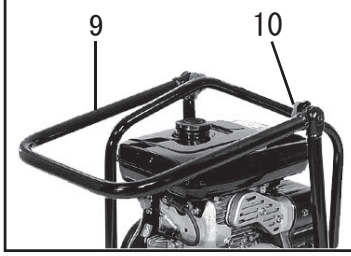
（各機種別の搭載エンジン型式は 6ページの「5. 仕様」をご覧ください。）

**MVC-F60H**

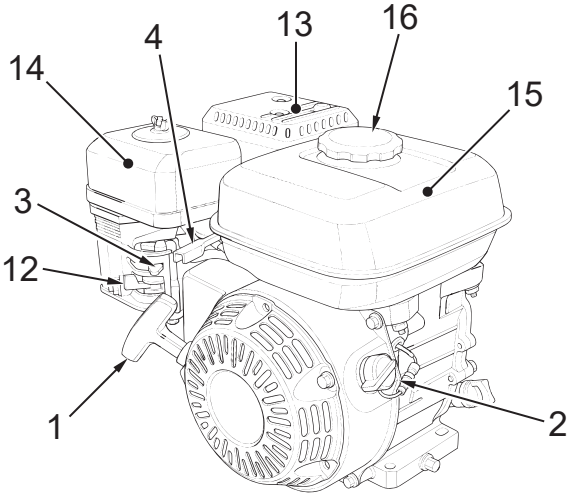



**中折ハンドル**




**GX120 GX160 型エンジン**




1. 始動ノブ
2. ストップスイッチ
3. チョークレバー
4. 調速レバー
5. ハンドル
6. ガードフック
7. 起振体
8. 転圧盤
9. 中折ハンドル
10. グリップボルト
11. 水タンク
12. 燃料コック
13. マフラー
14. エアークリーナー
15. 燃料タンク
16. 燃料タンクキャップ

## 7. 運転前点検

**⚠警告**

- エンジンを停止させた状態で点検を行ってください。回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う危険性があります。
- 本機の温度が下がってから点検作業を行ってください。特にマフラーは高温になり、大やけどをする危険性があります。

作業前各部点検表

| 点検個所 | 点検項目 | 点検個所 | 点検項目 |
|---|---|---|---|
| 外観 | 傷、ゆがみ、汚れ | 防振ゴム | 傷、変形、亀裂、破損 |
| エアークリーナー | 汚れ、傷、変形 | エンジンオイル | 汚れ、油量 |
| 転圧盤 | 摩耗、変形、破損 | エンジン板ボルト | 摩耗、変形、破損 |
| ボルト、ナット類 | ゆるみ、脱落 | 燃料タンク | 漏れ、量、汚れ |
| ハンドル | 傷、変形、亀裂、破損 | 燃料系統 | 漏れ、傷、ゆるみ |
| *エンジン各部の点検詳細は、別冊のエンジン取扱説明書を参照してください。* | | | |

### 7.1 点検

**⚠危険**

**エンジンが停止した状態で点検を行ってください。回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う危険性があります。**
**本機を水平にし、機体が動かない事を確認してから点検してください。**

- **作業前の点検箇所の詳細は17ページに記載されている「各部点検スケジュール表」を参照してください。**

1. 各部を綺麗に掃除し、泥・埃の無いように手入れをしてください。
   特に転圧盤の底面に付着した泥、エンジンの冷却風吸入口、気化器及びエアクリーナーの周辺は綺麗にしてください。

2. 各部の締付ネジが緩んでいないか確認してください。振動のためネジが緩んでいると思わぬ事故や故障の原因となります。

3. ガードフック、ベルトカバー、防振ゴムを点検し、破損が無いか確認してください。

4. Vベルトの緩みを点検してください。張りの具合は両軸の中間の所を強く指で押して10～15mm位たわむように張ってあれば正常です。
   Vベルトが緩んでいますとベルトがスリップしてエンジンの動力伝達が悪くなると共にベルトが発熱し、Vベルトの寿命も短くなります。また発生する転圧力が小さいのでエンジンの回転を上げると不整振動が発生し故障の原因となります。

5. エンジンを水平にしてオイルを点検し、不足している場合は補充してください。（図1）
   エンジンオイルは次の表に従い使用してください。

| 季節 | 温度 | 使用オイル（SE 級以上 ） |
|---|---|---|
| 夏 | 25℃以上 | SAE#30 |
| 春・秋 | 25 ～ 10℃ | SAE#30、 #20 |
| 冬 | 10 ～ 0℃ | SAE#20 |
| | 0℃以下 | SAE#10 |

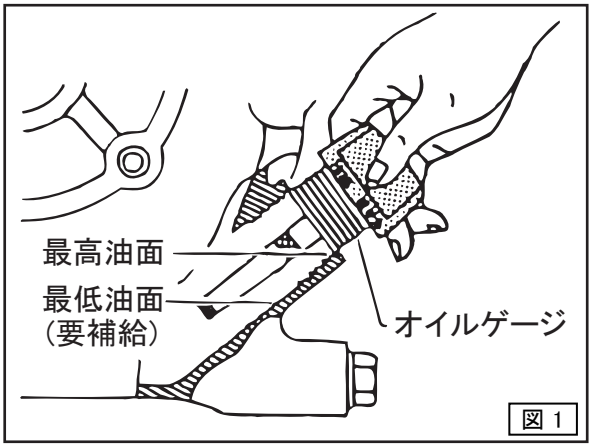


図 1

6. 本機を水平にして起振体のオイルレベルプラグを外し、起振体オイルが口元まで入っているか確認してください。オイルレベルプラグは起振体ケース右側面(反ベルト側)にあります。(図2)

   起振体オイルはエンジンオイル#10W-30を使用してください。

- **起振体オイル油量**
  MVC-F60シリーズ： 140cc
  MVC-F70： 140cc

起振体オイルは一ヶ月 又は200時間運転毎にプラグを外し、機体を傾けて全て排出させ、新しい物と交換してください。

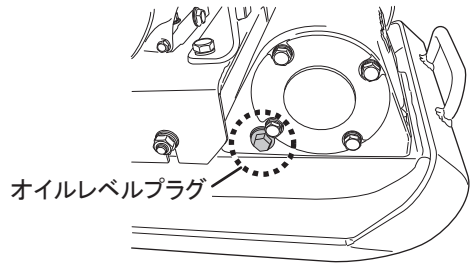



図 2

7. 燃料は自動車用無鉛ガソリンです。燃料を入れる場合は必ずフィルターを通して濾過しながら入れてください。

**⚠ 危険**

**エンジンをかけたままで絶対に給油しないでください。**
**火災の危険があります。**

**⚠ 危険**

**燃料補給中は絶対にタバコを吸ったりその他火気を近付けないでください。**
**火傷や火災等重大な危険を引き起こす恐れがあります。**

**⚠ 危険**

**燃料を補給する時は周囲に可燃性の無い場所を選び、燃料をこぼさない様に注意してください。もしこぼれたら良く拭き取って乾燥させてください。**

8. 散水作業の場合は水タンクに注水してください。

**注意**

**水以外を入れてはいけません。水以外の液体を入れると、樹脂・タンクキャップシール等の劣化、膨張の恐れがあり漏れや破損の原因となります。**

9. 水タンクは上方に引き抜く事で取外しが出来ます。外した水タンクを再び装着する場合は水タンクの溝にフックをしっかりと差し込んでください。散水の量はコックで調整ができます。

## 7.2 回動式移動車の使用方法

**車輪の着脱操作は平坦な固い場所で行ってください。**

●格納状態から移送状態へ

1. ロックノブを引き上げて、車軸を回動させ車輪を接地させます。(図3)

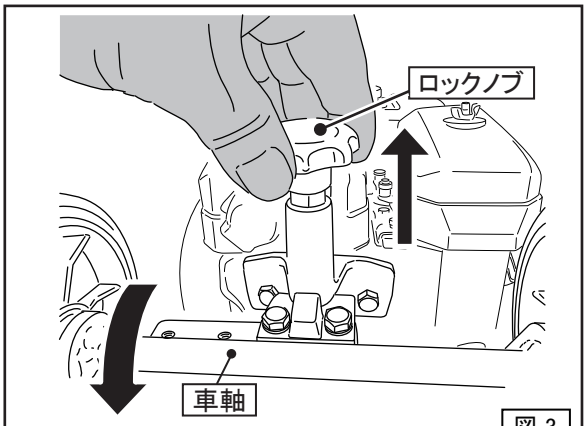



図 3

2. ハンドルを後方に倒して、ハンドルストッパーで固定します。
ハンドルストッパーのアイナットを90度右へ回します。(図4)

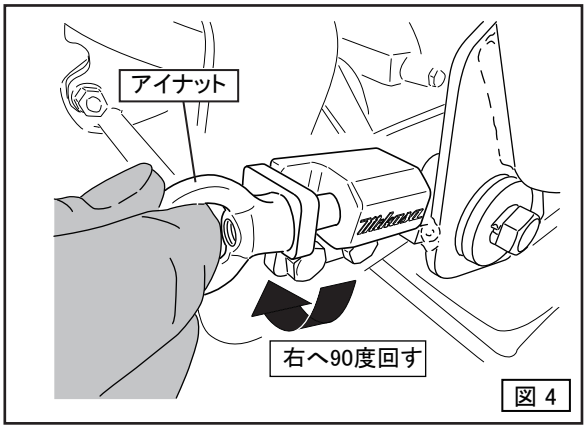



図 4

3. アイナットを前方に押し込みます。ハンドル側の爪の上部にストッパーの先端が入りますすが、固い場合はハンドルを後方へ引いてみてください。(図5、6)

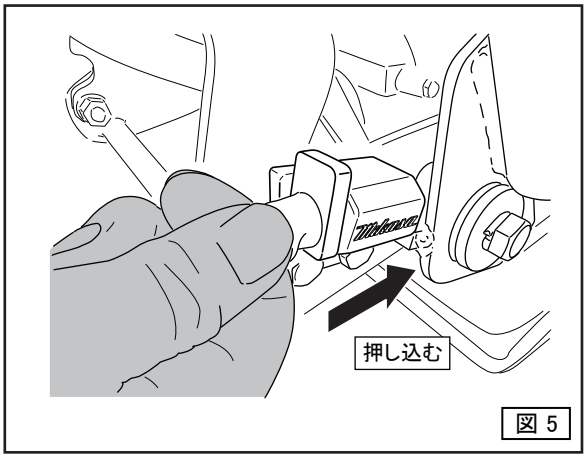
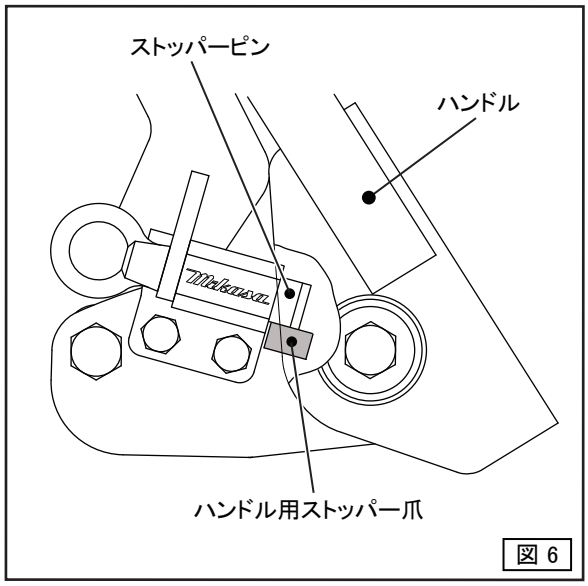
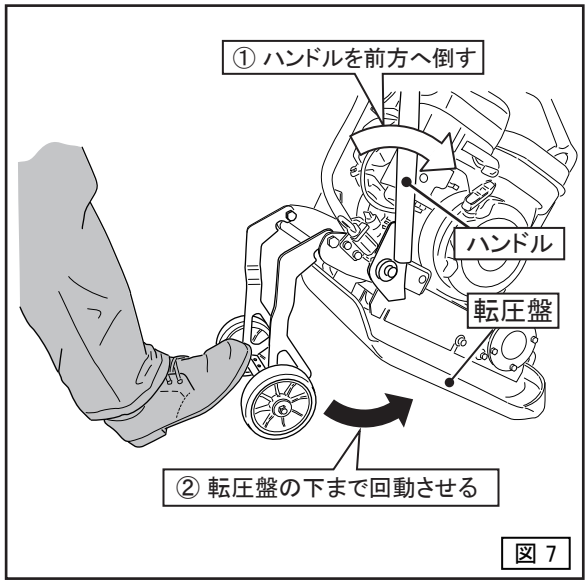


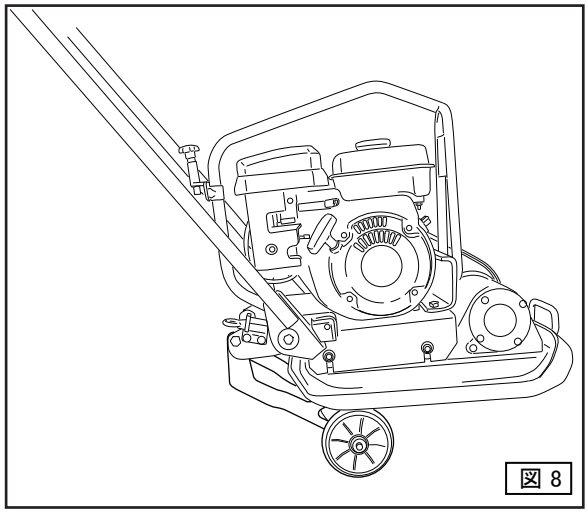

図 5




4. ハンドルを前方に倒し、転圧盤の後端を浮かし車軸を転圧盤の下に、車軸のアームが転圧盤に接するまで回動させます。(図7)

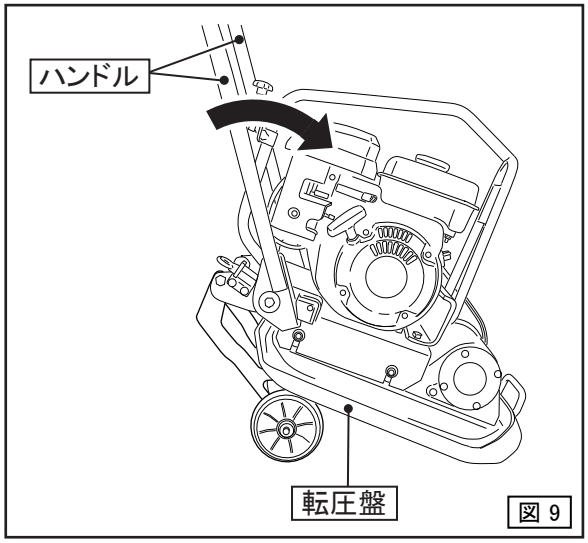



5. ハンドルを後方に引き戻し、転圧盤を浮かして機体を移動させます。(図8)

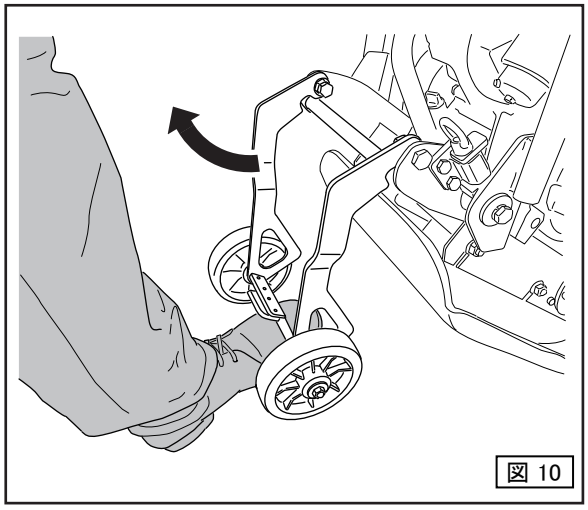



● **移送状態から格納状態へ**

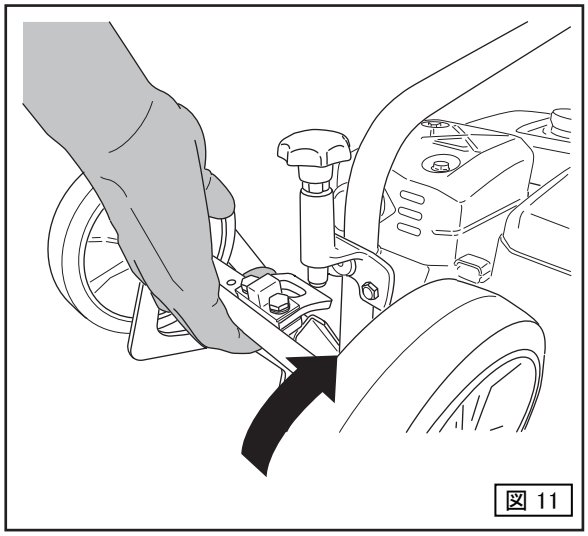
1. 転圧盤の先端を接地させ、ハンドルを前に倒して車輪を浮かします。(図9)




2. 車軸を後方に回動させ、転圧盤を接地させます。(図10)




3. 車軸を持ち上げて格納位置方向に回動させます。(図11)



4. ロックピンストッパーがロックピンに当たると、ロックピンが一度せり上がり、ストッパー穴に入ると自動で下がります。このロック状態になるまで回動させてください。(図12)

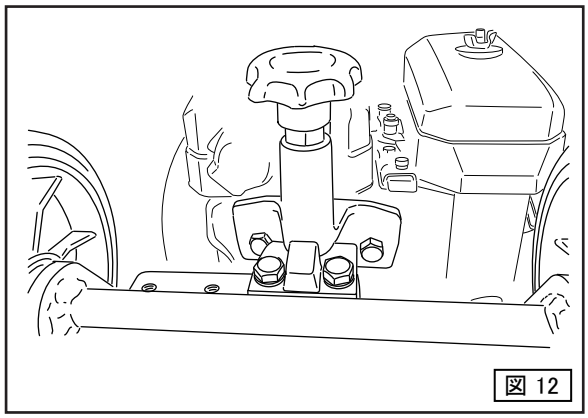


図 12

5. ハンドルストッパーのアイナットを引いてから90度左へ回して、ハンドルの固定を解除します。(図13)

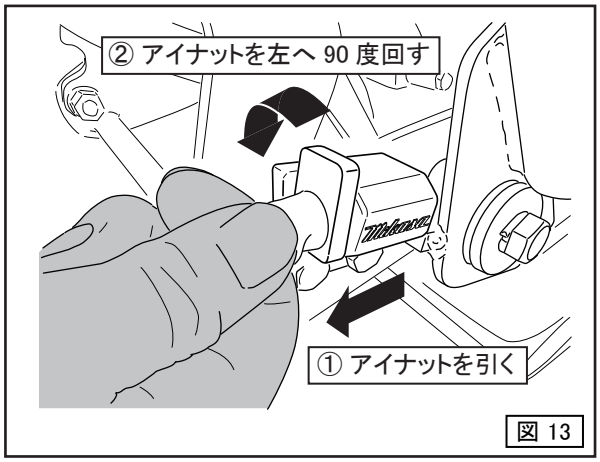


図 13

6. 以上で格納完了です。

## 8. 運転

### 8.1 始動

**⚠危険**

**エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており大変危険です。**
**換気が悪い所や屋内では使用しないでください。**

1. 燃料コックのレバーを開いて燃料を通します。(図14)

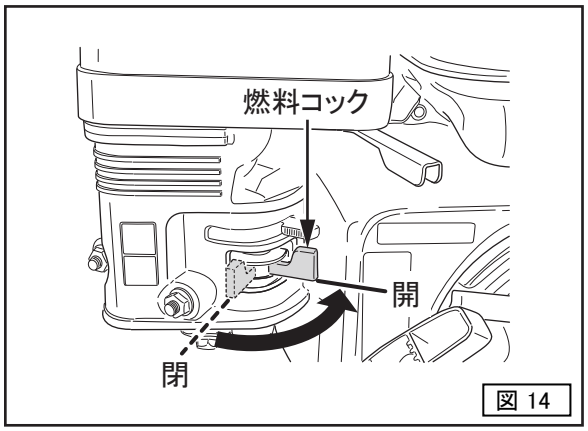


図 14

2. ストップスイッチを“ON(I)”の位置にします。(図15)

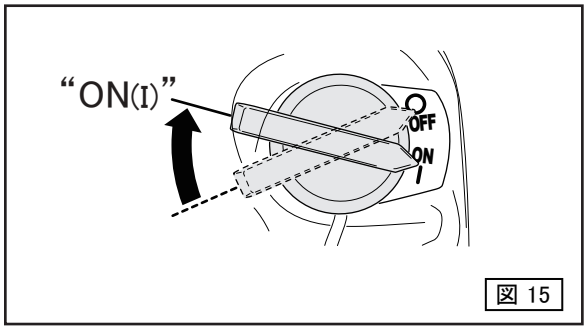


図 15

3. 調速レバーを全開側へ約1/3開いた位置にします。(図16)

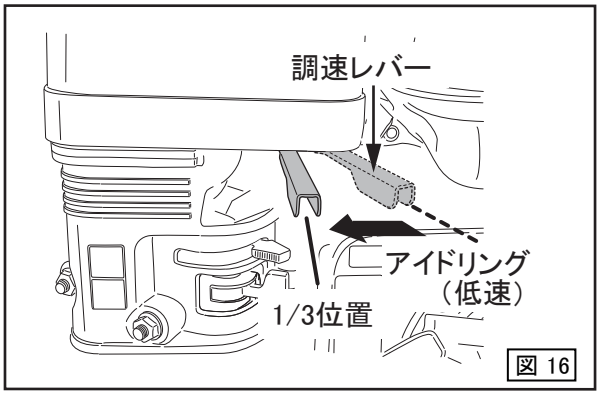


図 16

4. チョークレバーを閉じ(始動)ます。冬期やエンジンが冷えている時は全閉にし、暖かい時やエンジン停止直後の再始動時には半開か全開にします。(図17)

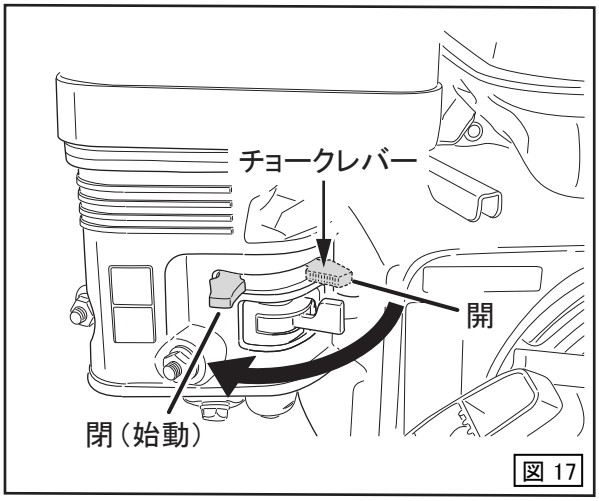


図 17

5. リコイルスターターの始動ノブを握り、少し引くと重くなるところ(圧縮点)があります。そこから勢い良く引張ってください。この時、ロープを引張りすぎるとロープが切れたり抜けてしまう恐れがありますから注意してください。(図18)

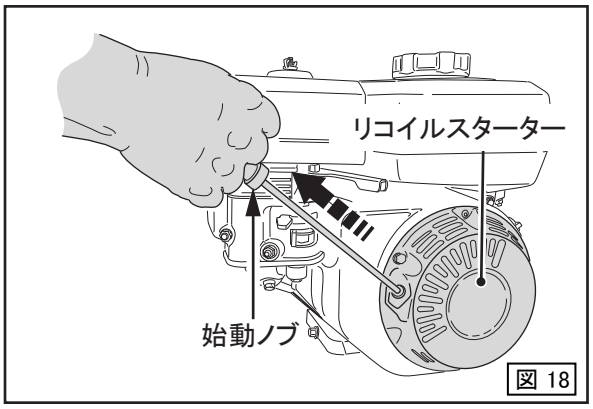


図 18

6. エンジンが始動したらすぐに調速レバーを戻し、エンジンの回転音を確認しながらチョークレバーを徐々に戻し全開にします。(図19)
**始動後は、必ず2～5分程度低速で暖機運転を行います。特に寒冷時には必ず実行してください。**

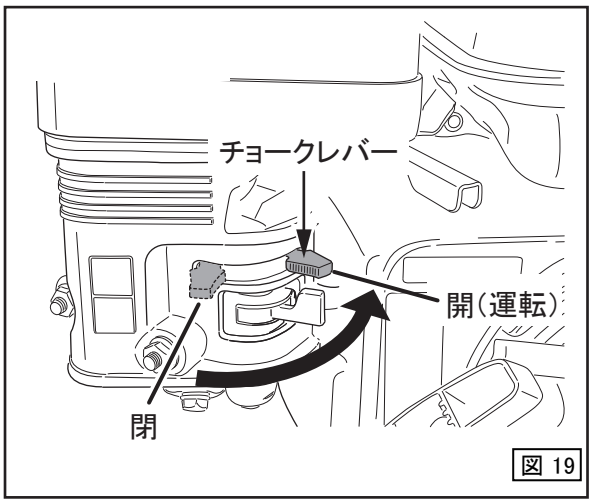


図 19

**⚠ 注意**

**調速レバーを半開のままにすると、遠心クラッチがスリップした状態となり、遠心クラッチの故障の原因になるとともに、本機が異常振動を起こし危険です。エンジンが始動したらすぐに調速レバーを低速に位置に戻してください。**

## 8.2 運転

1. 調速レバーを開く(高速)と本機は振動と前進を始めます。調速レバーをゆっくり開くとクラッチがスリップした状態のままになりますので、調速レバーの開閉は一気に行ってください。(図20)

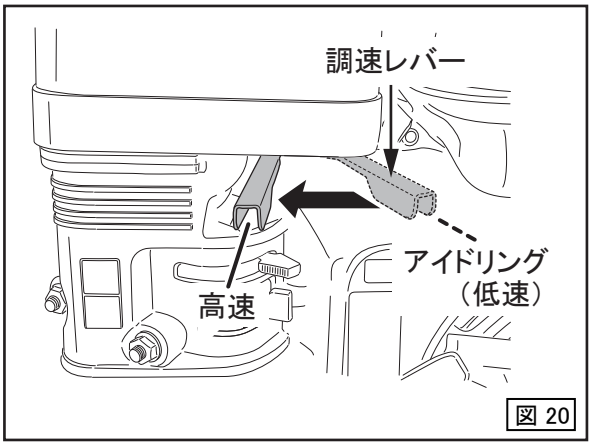


図 20

**注　意**

**粘土を含む土壌で作業する場合は、転圧盤が地面から離れにくく、走行が遅くなります。このような場合は転圧盤の底面に粘土が付着していないかを点検してください。
なお、粘土質や高含水比の土壌では本機の転圧力が有効に働かないため、ランマー等の転圧機を使用するか、適正な含水比になるまで乾燥させてください。**

2. 散水作業を行う時は、水タンクのコックを開いてください。(図21)

**注　意**

**水タンクに入れる水は、必ず水道水を使用してください。水道水以外ですとゴミ等が混入して水コックや散水管がつまる場合があります。**

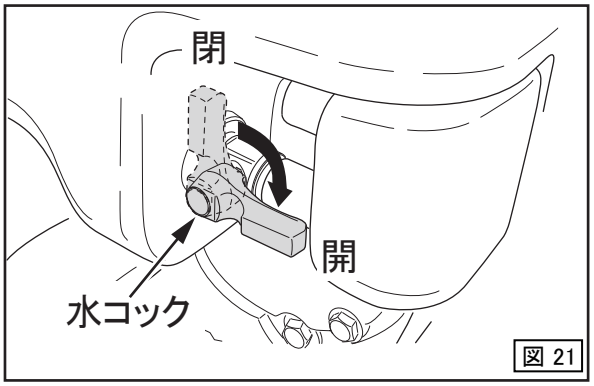
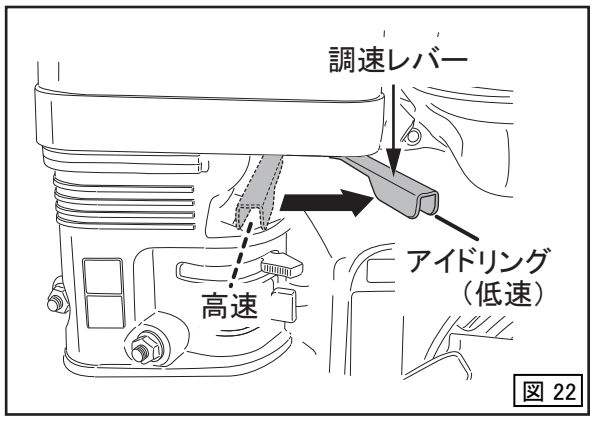


図 21

3. 運転を止める時は、調速レバーを一気にアイドリング(低速)の位置へ戻してください。
(図22)

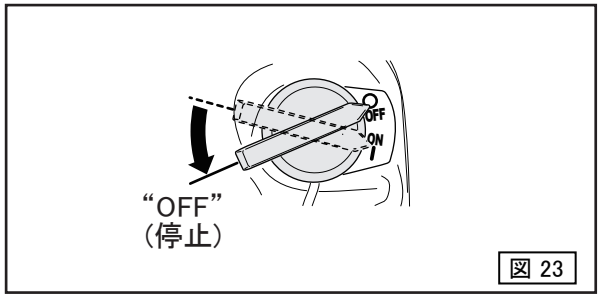



## 9. 停止

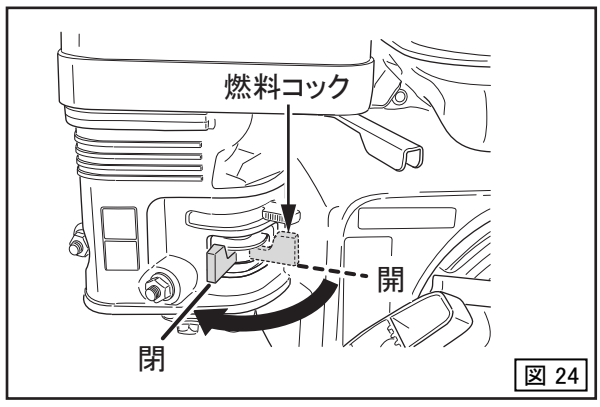
1. エンジンを停止させる時は、ストップスイッチを“OFF(○)”側に回してください。
運転中の場合は、調速レバーをアイドリング（低速）に戻して3～5分程エンジンを回して温度が下がってから停止させてください。(図23)

**⚠危険**

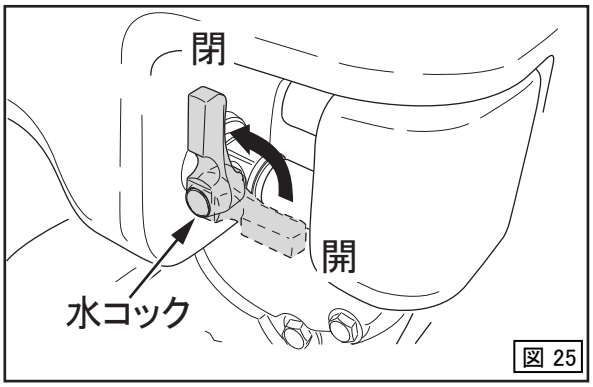
**エンジンを高温の状態で停止させると、シリンダー内部の磨耗が早まり、エンジンの故障の原因となります。**




2. 燃料コックのレバーを閉じてください。(図24)




3. 散水作業を行っていた時は水タンクのコックを閉じます。(図25)



## 10. 輸送

**⚠ 警告**

- ガードフレームや防振ゴムの破損、ネジの緩み、脱落が無く安全である事を確認してください。
- 吊り上げの際は必ずエンジンを停止させ、燃料コックを閉じてください。
- 強度が充分で、キンクや型崩れの無いワイヤーロープを用いてください。
- 真っ直ぐに衝撃をかけないようにゆっくり吊り上げ、吊り上げた機械の下には絶対に人や動物が入らないようにしてください。
- 安全のため、必要以上の高さには吊り上げないでください。

### 10.1 積み下ろし

**クレーンによる積み込み・積み下ろし作業はクレーン・玉掛けの資格が必要です。**

1. 本機の積み込み積み下ろしはクレーン等で行ってください。

2. 積み下ろし作業の際は指揮者を決め、必ず指揮者の指示により作業を行ってください。

3. 吊り上げの際は必ずガードフックに吊り上げ具を引掛けてください。(図26)

**⚠ 危険**

**ガードフック以外の場所(ハンドルや転圧盤等)に吊り上げ具を引っ掛けての吊り上げ作業は絶対に行わないでください。**

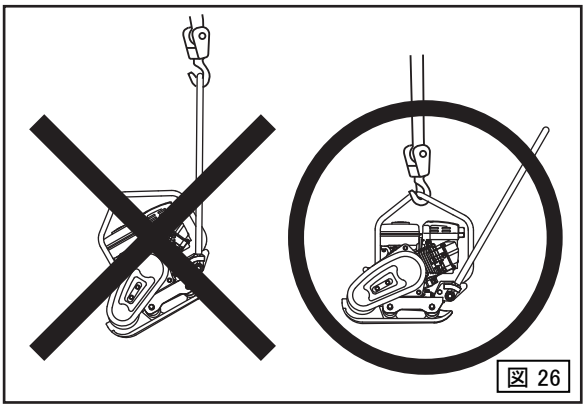


図 26

### 10.2 運搬に関する注意事項

**⚠ 警告**

- 運搬時はエンジンを停止させ、燃料コックを閉じてください。
- 運搬時は必ず燃料を抜いてください。
- 本機が動いたり、倒れたりしないようしっかり固定してください。

## 11. 保管

1. 各部のゴミや泥を水洗いして落とし、充分に乾燥させてください。

2. ゴミ、埃がかからないようカバーをかけて直射日光の当たらない湿気の少ない場所に格納してください。

3. 平坦な場所に置き、積み重ねないでください。

4. 屋外に放置しないで、必ず屋内で保管してください。

**長期保管の場合**

1. 燃料タンク、燃料パイプ、キャブレターの燃料は綺麗に抜き取ってください。

2. エンジンオイルの補充・交換をもれなく行ってください。

3. スパークプラグを外してエンジンオイルを数滴シリンダ内に流し込み、数回手回して(始動ノブを引いて)内部に充分行き渡らせましょう。

4. エアクリーナー、マフラーの吸入口及び排気口をしっかり覆ってください。

5. 屋外に放置しないで、必ず屋内に格納してください。

6. 本機を横(後)倒しにして保管しないでください。

# 12. 定期点検と調整

## 12.1 各部点検スケジュール表

| 点検時期 | 点検箇所 | 点検項目 | 油脂類 |
|---|---|---|---|
| 毎日（作業前） | 外観 | 傷、 ゆがみ | |
| | 燃料タンク | 漏れ、 油量、 汚れ | ガソリン |
| | 燃料系統 | 漏れ、 油量、 汚れ | |
| | エンジンオイル | 漏れ、 油量、 汚れ | エンジンオイル |
| | 防振ゴム | 亀裂、 磨耗、 破損 | |
| | 起振体オイル | 漏れ | エンジンオイル |
| | エアクリーナー | スポンジの埃 | |
| | ガードフック | 破損、 傷、 ボルト・ナットの緩み・脱落 | |
| | ボルト・ナット類 | 緩み・脱落 | |
| 20 時間 | エンジンオイル | 初回のみ20時間で交換 | エンジンオイル |
| 100 時間毎 | エンジンオイル | 交換 | エンジンオイル |
| | 起振体オイル | 漏れ、 油量、 汚れ | エンジンオイル |
| 200 時間毎 | V ベルト | 傷、 張り | |
| | クラッチ | 汚れ、 傷、 磨耗 | |
| | エンジン板ボルト | ゴムの摩耗・変形・劣化 | |
| | 起振体オイル | 交換 | エンジンオイル |
| 2 年毎 | 燃料パイプ類 | 交換 | |
| 不定期 | エアクリーナーエレメント | 交換 | |

**エンジン関係の点検及び整備につきましては、 付属のエンジン取扱説明書を参照してください。**
**注）上記は標準状態での点検時間です。 使用条件により内容が異なってきますので御注意ください。**

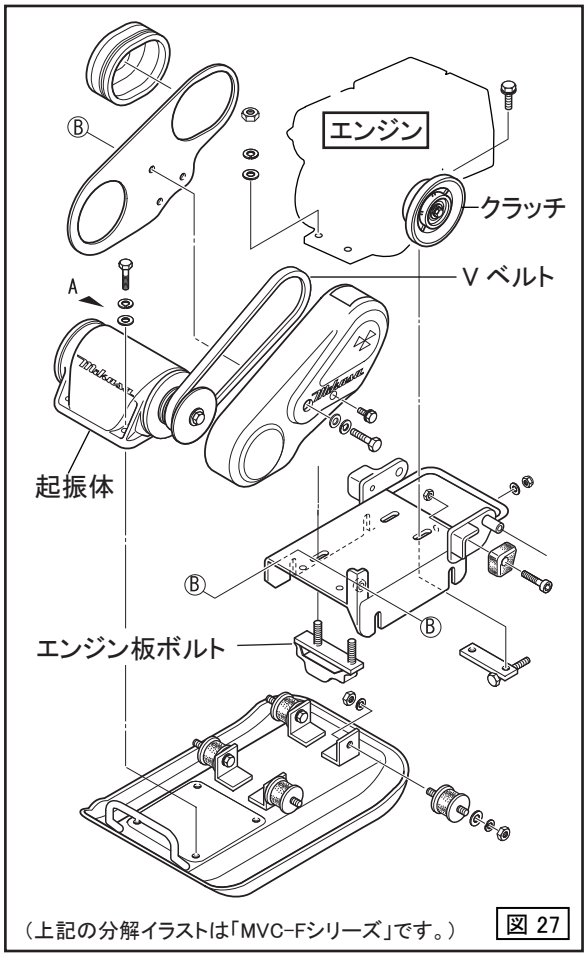
## 12.2 エンジンオイルの交換

エンジンオイルは初回は20時間、以後100時間運転毎に交換してください。

## 12.3 エアークリーナーの清掃

エアクリーナーエレメントの汚れが酷くなると、エンジンの始動不良、出力不足や運転に不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くしますので、必ずエレメントの清掃を行ってください。汚れが取れない場合はエレメントを交換してください。
**（詳細は別紙エンジン取扱説明書を参照）**

## 12.4 Vベルト・クラッチの点検 (図27)




(上記の分解イラストは「MVC-Fシリーズ」です。) 図 27

1. Vベルト
200時間毎にベルトカバーを外し、Vベルトの張り具合を点検してください。張りの具合は両軸の中間の所を強く指で押して10～15mm位たわむように張ってあれば正常です。(図28)

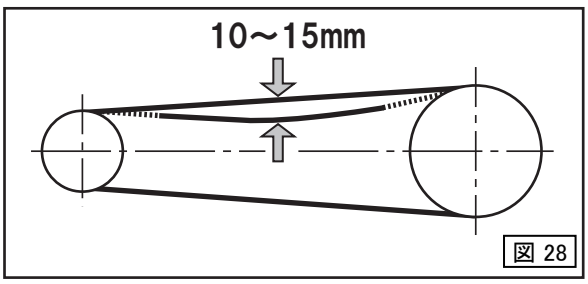



図 28

2. クラッチ
クラッチの点検は、Vベルト点検と同時に行ってください。クラッチの外周ドラムの焼き付きやV溝の磨耗・損傷を目視で点検します。また、V溝が汚れている時は綺麗に掃除してください。
ライニングシュー等の磨耗は運転検査で確認します。シューが磨耗してくると動力の伝達が悪くなり、クラッチがスリップします。

**⚠ 注意**

**運転中に振動が弱くなったり、エンジンは正常に回転しても振動しない場合は200時間点検に関わらずVベルト・クラッチの点検・交換を行ってください。**

## 12.5 起振体オイルの点検・交換 (図27)

本機を水平にして起振体のオイルレベルプラグを外し、起振体オイルが口元まで入っているか確認してください。オイルレベルプラグは起振体ケース右側面(反ベルト側)にあります。
(図29)

- 起振体オイルはエンジンオイル#10W-30を使用してください。油量は9ページを参照してください。
- 起振体オイルは一ヶ月又は200時間運転毎にプラグを外し、機体を傾けて全て排出させ、新しい物と交換してください。

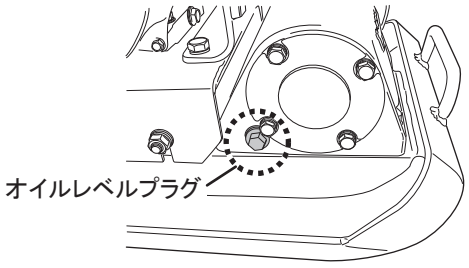



図 29

## 12.6 エンジン板ボルトの点検・交換 (図27)

ゴム部の磨耗・変形・劣化が確認された場合には、速やかに交換してください。
磨耗・変形によってV-ベルトが外れたり、振動が直接ベース上部に伝わりエンジン周辺部が破損する恐れがあります。(図30)

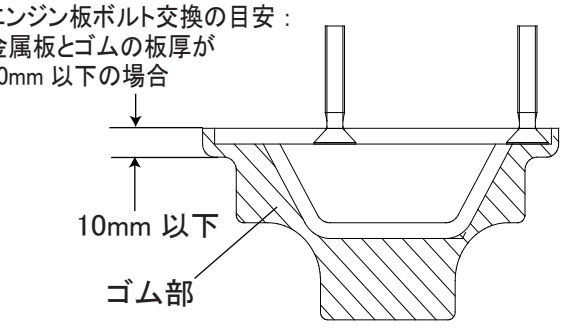



図 30

# 13. トラブルシューティング

## 13.1 エンジン

### 13-1-1 始動不良

- 燃料がありスパークプラグが発火しない
  - 高圧コードまで電気が来ている
    - スパークプラグがブリッジしている
    - スパークプラグにカーボンが溜まっている
    - スパークプラグの絶縁不良にいる短絡
    - 火花間隙不適
  - 高圧コードに電気が来ない
    - 停止ボタンスイッチの短絡
    - イグニッションコイルの不良
- 燃料がありスパークプラグは発火する場合
  - 圧縮が良い場合
    - 消音器のカーボンによる閉塞
    - 不良燃料の使用
    - エアクリーナーのカブリ
    - 燃料に水又はゴミの混入
  - 圧縮が悪い場合
    - シリンダーガスケットの不良又は締付不良
    - ピストンリングの膠着
    - シリンダーの磨耗
    - スパークプラグの締付不良
- 気化器に燃料が来ない場合
  - 燃料タンク内に燃料が無い
  - 燃料コックの開き不良
  - 燃料フィルターの詰まり
  - タンクキャップの空気穴塞がり
  - 燃料パイプ中に空気が溜まる

### 13-1-2 運転不調

- 力　が　弱　い
  - 圧縮が良く失火も無い
    - エアクリーナの汚れ
    - 燃料パイプに空気が入っている
    - 気化器フロートチャンバーの油面の狂い
    - シリンダー内カーボンの溜まり
  - 圧縮不足（圧縮が悪い場合を参照）
  - 圧縮が良く失火がある
    - イグニッションコイルの不良
    - スパークプラグが汚れている
    - 点火コイルが時折短絡する
- エンジンの過熱
  - 燃焼室内にカーボン堆積過多
  - 排気孔、消音器のカーボンによる閉塞
  - スパークプラグ熱価不良
- 回　転　変　動
  - ガバナの調整不良
  - ガバナスプリング不良
  - 燃料の流通不良
  - 吸入管系統からの空気吸い込み

### 13-1-3 リコイルスターターの動きが悪い

- 回転部のゴミ詰まり
- スパイラルスプリングのへたり

## 13.2 本体

- エンジンは回るが不定振動又は振動しない
  - 起振体のベアリングロック
  - オイル量過多（起振体）
  - クラッチのすべり
  - V ベルトのすべり・外れ
  - エンジンのセット回転数不良
  - 輾圧盤の磨耗
  - 防振ゴムの磨耗・破損

Mikasa

MIKASA SANGYO CO., LTD.
1-4-3,Kanda-Sarugakucho,Chiyoda-ku,Tokyo,101-0064,Japan

三笠産業株式会社
〒101-0064　東京都千代田区神田猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ
TEL 048-734-2402　　FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ
TEL 048-734-2401　　FAX 048-736-6787

その他のお問合せ
info@mikasas.com

Web パーツリスト
https://www.mikasas.info/MIKASA/JA/

PRINTED IN JAPAN